

▲女學生上りの奥様の、兎角非難せらるゝは常識に缺けたる節の多きことなり。かにかくと常規づくめの書物の上にかゝつらいて、理屈のみは振り回はせど、もとゝ書物といふは、大凡の場合を記せるに止まれば、實際世の中に出で、は、書物以外のことは、幾らも出で来るなり。學校生活をなさぬ人は、いろゝと年長者につきてその経験をすれど、學校生活にのみ心を傾けたる人は、その經驗なきため、極めて通常の考に通ぜずして、さまゝの可笑しき振舞に陥るなり。

▲似た者夫婦といふことあり。これは似た者が互に夫婦になるといふにはあらで、似た者が夫婦で居るといふことなり。詳にいへば、始は似ざりし男女の、夫婦になりて後互に、其嗜好、其性癖等の相似よることをいふなり。これでこそ、夫婦

は異體出身ともいはれぬ。もし似ぬもの夫婦にてもあらんには、其夫婦こそは、まことに融和といふものを得たるものとはいはれじ。相互の感化といふこと、これ實に夫婦間の要素とぞいふべき。

昔いろいろは料理

石井泰次郎

(二)

◎小板玉子の拵方

これは小板かまばことて、小さき細き板にかまばこをつくる形に似たるゆゑに小板とはいふなり、玉子を煮ぬき玉子にして、からを去りて、二つに堅に切て黃身を取り出して、其あとへ、山椒みそなどねりたるを入れて、小板につけてあぶりて出すなり、

小板はすぎの木にて細く玉子をのするほどにして
羽子板の如くもつ所をほそくしてかくべし

◎紅白うちもの拵方

三盃砂糖 百匁に極上みぢん粉 六十匁のわりに
て砂糖と粉とまぜ合せて、茶碗などへかたくつめ
て、打かへし出すべし、砂糖へ水のしめりたけま
ぜあさて粉と合せて形に入るべし、紅は色よきは
どに砂糖にまぜあさて、後に粉と合すべし、べに
は細工紅の生上味といふを用ふべし、ピンヅメの
食用紅は用ふべからず、

洗濯水と香水の製法

在相州腰越 平岩學洋

私には皆さんに洋風洗濯水及香水の製法を御紹介
致しませう、此れは私の家庭で實行してゐるので

あります、此の製法は至て便利で、又買った物に
比べると餘程優ております、皆さん試にやつてご
らんなさい。洋風洗濯水製法、此れは西洋で盛に
製するのであります、恰も我が國の洗粉等製す
るのと同じであります、此の製法は専らあくとな
ぶらとを混じて製しました尋常白石鹼五十六匁と
炭酸曹達六十四匁、蒸留水（或は雨水を以て代用
す）三升六合、テレメン油清十六匁とをよくまぜ
て、之れを火にあげ、しづかにかきませ、凡そ十
五分間程沸騰せしめ、其の後便宜の入れ物に移し
入れて貯ふのであります。之れを一時に澤山こし
らへてあきまするには、右の割合に調合すれば宜
しいのであります、其のこしらへた水は使用の際、
適宜の水に和して衣服を洗ふのであります。（用法
は凡一升六七合の水、若しくは湯の中に洗濯水一